

品川区における小中一貫校の一連の施設整備について(2)
- 学校別計画の特徴 -

正会員 長井 厚*
正会員 八木 真爾**

小中一貫校 品川区 オープンスペース
日野学園 伊藤学園 品川学園

1. はじめに

前稿に続き、本稿では、品川区の小中一貫校新築5校について教育委員会担当者へのヒアリングをもとに筆者が理解した学校別に計画の特徴について述べる(表1)。

2. 学校別計画の特徴

2.1 日野学園(2006年竣工)

(1) 個別の計画条件

- ・区総合体育館との複合施設とする。
- ・地区計画(塀禁止)から防犯上、人工地盤にグラウンド。

(2) 実現内容等

- ・普通教室と同じ奥行きのある中廊下型オープンスペース(以降OS)のある平面構成となる。
- ・教室とOS間はスライディングウォールとしたが、操作性が悪く、教室+広い廊下になってしまった。
- ・低学年の分散昇降口は設計者提案、その後に継続。

2.2 伊藤学園(2007年竣工)

(1) 個別の計画条件

- ・日野学園と同様である。日野学園の参照も少ない。

(2) 実現内容等

- ・OSに流しを設置。多様な活動を期待した。
- ・改善案として教室とOS間の仕切を引分戸とした。
- ・設計時に考えた空間の使い方が現場に伝わらない。

2.3 荏原平塚学園(2010年竣工)

(1) 個別の計画条件

- ・学年毎にまとまりのある教室作りを検討する。低学年を総合教室(水回や作業コーナー等を教室内でほとんどの授業を行える工夫をした教室)、高学年を教室+OS、少人数教室にも考慮することとした。

(2) 実現内容等

- ・片廊下型OSとした。OSが利用されないのは学習形態に対応していなからと考え、主に次の見直しをした。
 - 1) 中高学年のOSに想定利用に対応する家具を装備した(従来は学校からの要望により整備)。
 - 2) 低学年はOSの面積を普通教室内に取り込み、普通教室内の充実を図った(面積1.2~1.3倍)。
 - 3) 小中学校の図書室を一体化した。互いの本に触れる機会が増え、利用が活発化した。

- ・教職員へ設計意図、想定する使い方を説明した。

2.4 品川学園(2010年竣工)

(1) 個別の計画条件

- ・幼稚園と保育園を一体化した施設と複合する。
- ・学年毎の特徴を活かせる教室作りを推進する。
- ・教職員への設計意図伝達を充実する。

(2) 実現内容等

- ・計画アドバイザーと協働し、学年毎に特徴ある学習空間作りを徹底した。
- ・新しい空間を使いこなすには、使い方に対応した家具が必要と考え、家具を校舎と一体的に計画、配置した。
- ・中間説明、意図説明書等、意図伝達充実を図った。

2.5 豊葉の森学園(2013年竣工予定)

(1) 個別の計画条件

- ・幼保一体化施設、地域利用専用施設が複合する。
- ・4・3・2のゾーニングが困難なほどの敷地制約あり。

(2) 実現内容等

- ・児童数減少見込み、次世代学校施設として、コンパクト化、幼保一体化、地域利用施設を複合した。
- ・教室とOSの関係は、教室、廊下、廊下と一体化した広いスペースの関係にした(コンパクト化への対応)。
- ・メディアスペースは、先生方が作成した教材を保管し、いつでも閲覧できる場とした。

3. まとめ

ヒアリングからは、実作を積み重ねながら、発注者主導で検討が重ねられていった様子が伺える。

まとめとして、品川区の小中一貫校校舎を印象づけている普通教室とOSの関係から整備を振り返る。

(1) 普通教室とOSの関係

第一段階では、手探りのなか、できるだけフレキシブルに利用できることを意図し、普通教室とOSを平行配置、両者の間仕切を開放できる計画とした。1校目の状況を踏まえ、2校目では、間仕切の操作性を工夫した。OSの利用は、期待したほどにはならなかった。

第2段階では、カリキュラムの違いを踏まえて学年毎に特徴のある教室、OS作りを目指した。OSを中心に、想定利用に対応する家具を予め整備するとともに、教職

員への設計意図説明を進めた。

第3段階では、コンパクト化への意図もあり、教室、廊下、廊下と一体化した広いスペースの関係となった。

(2) 普通教室の計画

第一段階では、低学年に教室毎の昇降口を設けたが、全学年同一パターンで計画された。

第2段階では、学年毎の特徴を出すこと、カリキュラムとの対応も意識され、間仕切方法、OSの使い方にも学年毎の特徴を意識した計画となる。

第3段階では、学年毎の教室の考え方は継承されたが、OSとの関係は上記(1)のように変化した。

(3) オープンスペース展開の要因

品川区和氣課長は、OSの展開を内的要因、外的要因に分け、次のように述べている。

第一段階では、様々な学習形態に対応できるフレキシブルなスペースを求めた。狭小敷地であることから、面積効率のよい中廊下タイプとなった。

第二段階では、中廊下型OSでは授業に児童を集中させるのに教師の力量が必要となることから、片廊下型が可能な敷地を得たことから片廊下型OSを採用した。

第三段階では、片廊下型OSを継承したが、敷地制約

上、廊下と広い場所を組み合わせとなった。

4. あとがき

限られた方々へのヒアリングではあるが、品川区の小中一貫校の整備は、発注者側の強いリーダーシップにて進められたのに比べ、設計者の提案は期待に届いていなかった場面もあったのではないかと印象を受けた。また、設計者が参照できる計画的知見も限られていた。

小中一貫校校舎は新しい建物タイプであり、かつ、短期間で施設整備が進んできた建物である。新しい建物タイプで、かつ、急速に広がる場合は、計画段階であっても、提案内容を設計者が発表し、課題を共有することは、よりよい建築空間の実現にとって重要である。設計者には、臆せず計画案を発表していただきたいし、研究者にも耳を傾けていただきたいと考えている。

謝辞

ご多忙のなか、長時間にわたり、貴重なお話をいただいた品川区教育委員会和氣課長、澤井係長に感謝申し上げます。

表1 品川区の小中一貫校の整備展開

	整備展開		第1段階		改修型	第2段階		第3段階
	施設名		日野学園	伊藤学園	八潮学園	荏原平塚学園	品川学園	豊葉の森学園
基本事項	竣工年	2006年(平成18年)		2007年(平成19年)	2008年(平成20年)	2010年(平成22年)	2011年(平成23年)	2013年(平成25年)
	階数	地下2階、地上6階		地下2階、地上5階	地下無、地上4階	地下2階、地上6階	地下無、地上4階	地下無、地上4階
	クラス数(全校の普通学級)	27		28	27	31	39	35
	教室規模	71~72㎡		71~74㎡	64㎡	71~78㎡	72~90㎡	71~90㎡
	OS形状	幅広中廊下状		幅広中廊下状	-	幅広片廊下状	幅広片廊下+オープン諸室	片廊下+オープン諸室
	ASの有無・配置	予備教室兼用		予備教室兼用	予備教室兼用	予備教室兼用	専用(OSに連続)	専用(OSに連続)
教室外教師コーナーの有無	有(OS内・備品家具)		有(OS内・備品家具)	無	有(OS内・備品家具)	有(専用コナ・造作家具)	有	
教室周り	普通教室形状・規模	低学年	外壁凹凸有(昇降口付)	外壁凹凸有(昇降口付)	整形・均一	大型(AC・流し・昇降口付)	大型(AC・流し・昇降口付)	大型(AC・流し・昇降口付)
		中学年	整形・均一	整形・均一	整形・均一	整形・均一	整形・均一	整形・均一
		高学年	整形・均一	整形・均一	整形・均一	整形・均一	整形・均一	整形・均一
	教室・廊下、教室・OS間の仕切方	低学年	SW(全開放)	引分戸(全開放)	透明間仕切壁+引連戸	壁+引連戸	壁+引戸(3or4枚)	透明間仕切壁+引連戸
		中学年	SW(全開放)	引分戸(全開放)	透明間仕切壁+引連戸	壁+引連戸	引戸(全開放)	引戸(全開放)
		高学年	SW(全開放)	透明間仕切壁+引連戸	透明間仕切壁+引連戸	壁+引連戸	透明間仕切壁+引連戸	透明間仕切壁+引連戸
	OSの有無・形状	低学年	中廊下状均一OS	中廊下状均一OS	片廊下	片廊下	片廊下+AS(スタッフ教室)	片廊下
		中学年	中廊下状均一OS	中廊下状均一OS・流し	片廊下	中廊下状均一OS・流し	片廊下状OS+AS	片廊下+OS(AS or ゼミ)
		高学年	中廊下状均一OS	中廊下状均一OS・流し	片廊下	中廊下状均一OS・流し	片廊下状OS+ゼミ室	片廊下+OS(AS or ゼミ)
	昇降口 配置・形態	低学年	教室毎(人工地盤上1,2階)	教室毎(1,2階)	旧小学校昇降口、旧中学校昇降口を利用	教室毎(1,2階)	教室毎(1,2階)	教室毎(1,2年のみ)
		中学年	5学年同一(2階)	1階3学年同一		5学年同一(2階)	5学年同一(2階)	7学年同一(2階)
		高学年		1階2学年同一				
特別教室	特別教室	中廊下階北側+最上階	中廊下階北側+最上階	特別教室棟に集約	片廊下北側+最上階	低学年・教室前、他専用ゾーン	専用ゾーン	
	MC(図書室+PC室)	分散2設置型(OSに開放)	分散2設置型(OSに開放)	体育館棟1階(独立型)	低高一体型	低高2層型、階段閲覧室で連結	ラーニングセンター(図書コーナー、多目的スペース、高学年PC一体)	
	大型集会室	LC(6階)	視聴覚室、OSの対応化	LC(旧小中校舎中間)	ホール(5階)	LC(4階)		
管理系	職員室	一体(校務センター)	一体(校務センター)	一体(校務センター)	一体(校務センター)	一体(校務センター)	一体(校務センター)	
	保健室	大型1室+カウンセリング室	大型1室(内部部仕切壁有)	2室(1階、2階)	大型1室+カウンセリング室	大型1室+カウンセリング室	1室+カウンセリング室	
運動系	体育館	総合体育館+学校体育館	学校用2アリーナ(積層)	既存2+増築1(大型)	学校用1(低高用併置)	学校用1(低高用併置)	学校用1(低高用併置)	
	プール	通年利用(温水)・可動床 区民利用あり・運営委託	通年利用(温水)・可動床 区民利用あり・運営委託	通年利用(温水)・可動床 区民利用あり・運営委託	季節利用(屋内)・2層式 学校利用のみ	通年利用(温水)・可動床 区民利用あり・運営委託	通年利用(温水)・可動床 区民利用あり・運営委託	
複合用途	幼稚園・保育園	無	無	無	無(計画時幼稚園有)	幼保一体施設	幼保一体施設	
	ずまいるスクール(放課後学校)	有	有	有	有	有	有	
	他施設	区総合体育館	無	無	無	社会体験施設(区内校共用)	地域利用専用施設	
計画上の特記事項	地区計画(樹禁止) 防犯上、人工地盤へ	日野学園の参照多	地域利用の積極化	既存2校改修利用	学年毎に特徴ある教室	幼保併設	幼保併設	
		地域利用の積極化	地域利用の積極化	地域利用の積極化	低学年・総合教室	学年毎に特徴ある教室	地域利用専用施設併設	
	区総合体育館と複合	独立エリアを形成	独立エリアを形成	大きいグラウンド確保	敷地内産地の活用	狭小2敷地		
	教室毎の分散昇降口 その後も継承される	職員室をオープン化 OSに流し(多様な利用へ)	増築施設で既存2校を一体化 小中図書室を1室化	OSに想定家具を装備	計画アドバイザーと協働	将来児童数減少		
実現した試み	教室・OS間をSW(全開放) 操作性x・利用されず	OSに流し(多様な利用へ)	職員室をオープン化 OSに流し(多様な利用へ)	小中図書室を1室化	低学年教室面積1.3倍	特徴ある教室づくり推進	コンパクト化、複合化推進	
	教室・OS間をSW(全開放) 操作性x・利用されず	教室・OS間を引分戸 前回の改善案	既存間仕切、透明に交換 明るく開放的な教室	既存間仕切、透明に交換 明るく開放的な教室	MC一体化、OSと連携	利用想定に沿った備品導入	図書室+PC室+多目的 スペース1体化	
設計者	類設計	大建設計	桂設計	桂設計	梓設計	佐藤総合計画	石本建築事務所	

凡例 OS:オープンスペース AS:アッシュルスペース MC:メディアセンター PC室:パソコン教室 LR:ランチルーム SW:スライディングウォール AC:アルコーブ

* 佐藤総合計画 修士(工学)

* AXS Satow inc., M.eng.

**佐藤総合計画 博士(工学)

** AXS Satow inc., Dr.eng.